

平成29年度
全国学力・学習状況調査の結果
教科に関する調査の分析と改善の視点

平成29年9月8日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

冊子の活用について

この冊子は、平成29年度の全国学力・学習状況調査の教科に関する本県の調査結果から、今後、学校において取り組む必要があることについて、改善の視点として示したものです。

冊子では、小学校・中学校の国語と算数・数学それぞれについて、領域別に、平成25年度から平成29年度までの平均正答率の経年変化を示し、どのような成果や課題があるのか分析しています。

また、設問ごとに全国と滋賀県の結果を比較することで、本県の子どもたちの学習の状況を表しています。

さらに、全国的に正答率が低い設問、全国と本県の正答率の差が大きく開いている設問、無解答率が高い設問については、本県の子どもたちの学習におけるつまずきが表れている、課題のある内容であると捉え、学習の仕方や指導方法をどのように工夫することで力が身に付くのか改善方法を示しました。

各学校においても、以下の点をぜひ参考に自校の状況を分析し、取組を進めてください。早期からの取組が明日の子どもたちの力になります。

○領域別の平均正答率を経年変化で確認したり、設問ごとにつまずきの状況を確認したりする分析の方法

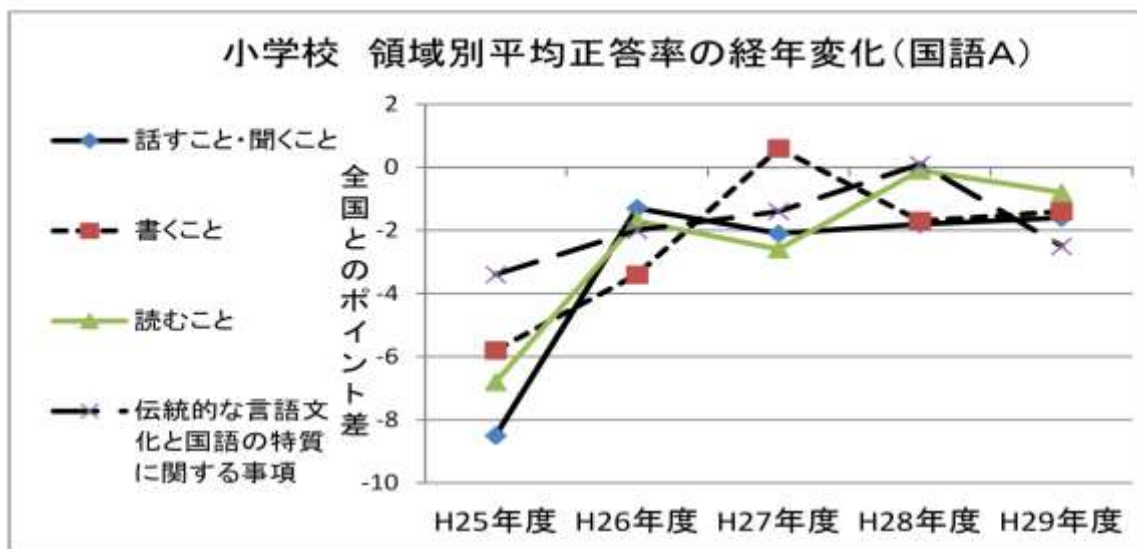
○全県的にみられる課題についての授業改善の視点を生かした授業づくり

小学校国語における分析

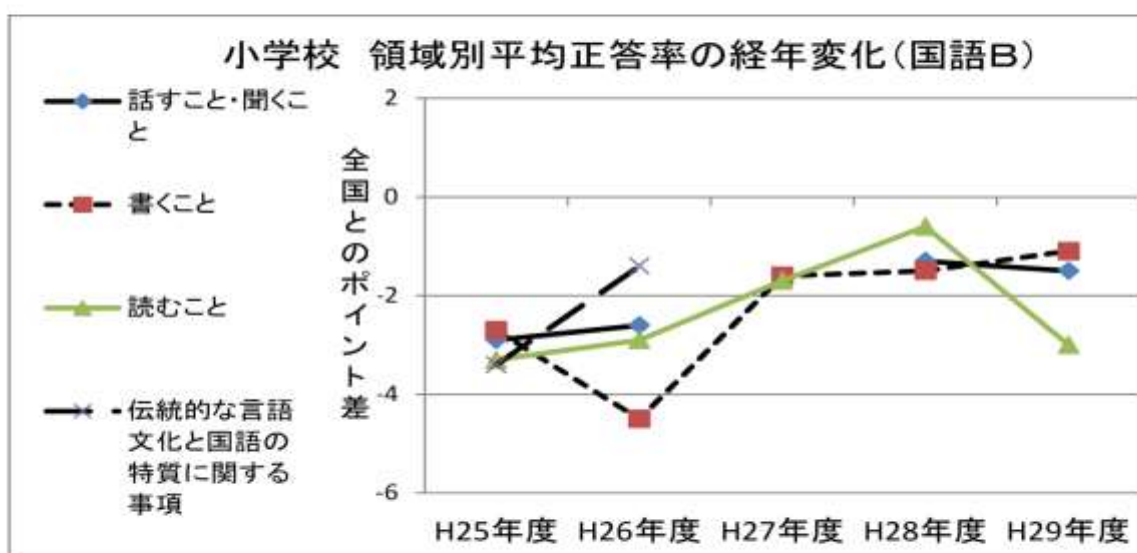
領域別平均正答率の全国との比較【小学校】〔国語〕

国語Aは、昨年度と比較し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においてやや改善したものの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、全国平均との差が広がった。国語Bの「読むこと」の領域で全国平均との差が広がっている。

学年別漢字配当表に示されている漢字を、文や文章の中で正しく適切に表記できるように指導することが大切である。



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
話すこと・聞くこと	-8.5	-1.3	-2.1	-1.8	-1.6
書くこと	-5.8	-3.4	0.6	-1.7	-1.4
読むこと	-6.8	-1.7	-2.6	-0.1	-0.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	-3.4	-2	-1.4	0.1	-2.5



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
話すこと・聞くこと	-2.9	-2.6		-1.3	-1.5
書くこと	-2.7	-4.5	-1.6	-1.5	-1.1
読むこと	-3.3	-2.9	-1.7	-0.6	-3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	-3.4	-1.4			

小学校国語における改善の視点

文や文章の中で正しく適切に漢字を書く

○ ポイント

- ①当該学年で学習する漢字が確実に書けるように指導する。また、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるように指導する。
- ②辞書を活用して、学習する漢字の意味や用法を確かめ、適切に用いることができるように指導する。

○ 取組の例



普段の取組についてチェックしてみましょう。

ポイント①

- 新出漢字を学習する際は、ノートに漢字を単独で書かせたり一つの熟語のみを書かせたりするのではなく、いろいろな熟語を調べて書かせたり用法がわかるように短文を作らせたりするなど練習の仕方を工夫させる。
- 当該学年までに配当されている漢字は日常的に文や文章の中で使うよう意識させる。当該学年に配当されている漢字は、文や文章の中で使わせるような学習場面を設定する。
- 同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付けさせる。
- 各教科等や日常生活の書く場面において、書いた文や文章の中で適切に漢字が用いられているかどうかを確認させる場を意図的に設定する。

(学習活動の例)

平仮名で書かれた文章を、学習した漢字を用いて書き直す。

平仮名で書かれた文章と漢字を用いて書き直した文章を比較し、適切に漢字を用いることのよさについて話し合う。

(文字を書く場面の例)

各教科のノートに学習のまとめや振り返りを書く場面。

係活動や委員会活動の中でポスターやお知らせを作成する場面。

ポイント②

- 必要に応じてすぐ調べることができるよう身近に辞書を設置する。
- さくいんの使い方などの辞書の使い方や辞書の特色等について理解を深めさせる。
- 他教科等における調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞書を活用し、調べる習慣を身に付けさせる。

問題別調査結果 [国語A：主として知識]
滋賀県一児童（公立）

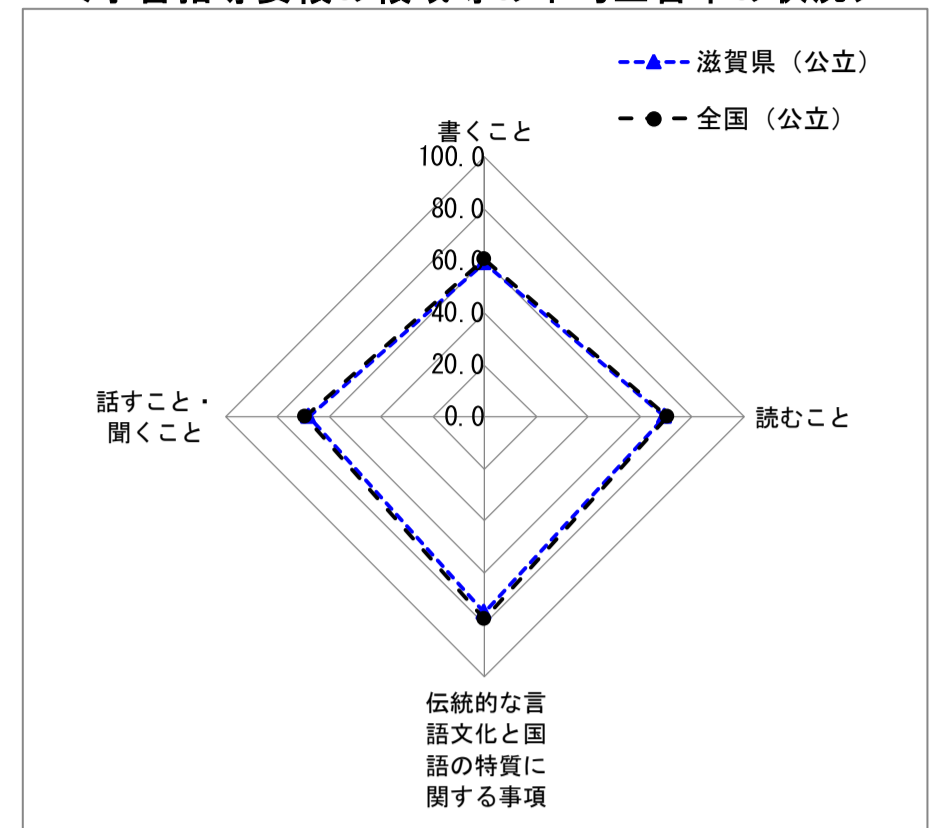
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	223	19,456		12,756	999,683

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			滋賀県（公立）	全国（公立）	
全体			15	73	74.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	67.6	69.2	
	書くこと	2	59.2	60.6	
	読むこと	3	69.4	70.2	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	75.5	78.0	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	67.6	69.2	
	書く能力	2	59.2	60.6	
	読む能力	3	69.4	70.2	
	言語についての知識・理解・技能	11	75.5	78.0	
問題形式	選択式	9	70.6	71.7	
	短答式	6	75.7	79.4	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率（%）		全国平均との差
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	滋賀県（公立）	全国（公立）	
1	学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う	3・4オ				67.6	69.2	-1.6
2一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く		5・6ウ			79.2	79.7	-0.5
2二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く		5・6イ			39.3	41.5	-2.2
3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む			3・4イ		73.2	74.4	-1.2
4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える		5・6エ	3・4(1)ア(ア)		79.3	79.4	-0.1
4二	グループの話し合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する		5・6エ	3・4(1)ア(ア)		55.9	57.0	-1.1	
5ア	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する（三度目の正直）	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる			3・4(1)ア(イ)		89.5	90.0	-0.5
5イ	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する（もちはもち屋）		3・4(1)ア(イ)		82.1	83.6	-1.5		
6	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する	古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む			5・6(1)ア(ア)		69.3	71.1	-1.8
7(1)	漢字を書く（参加たいしょう）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く			5・6(1)ウ(ア)		33.0	42.0	-9.0
7(2)	漢字を書く（4年生のきぼう者）		5・6(1)ウ(ア)		79.3	80.0	-0.7		
7(3)	漢字を読む（申しこみ期限）		5・6(1)ウ(ア)		93.5	94.5	-1.0		
7(4)	漢字を読む（事務室前）		5・6(1)ウ(ア)		84.7	88.8	-4.1		
7(5)	漢字を書く（箱が置いてあります）		5・6(1)ウ(ア)		71.0	76.8	-5.8		
7(6)	漢字を読む（指示）		5・6(1)ウ(ア)		92.9	94.5	-1.6		

全国平均を0としたときの
県平均と全国平均との差

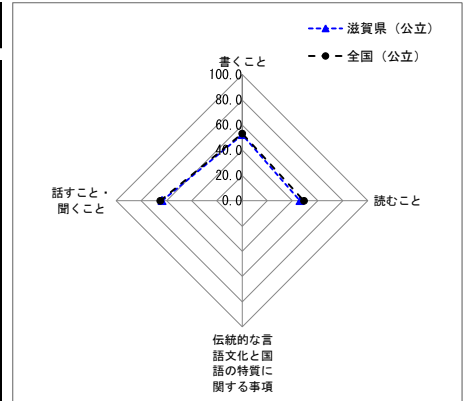
問題別調査結果 [国語B：主として活用]
滋賀県－児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	223	19,456		12,750	999,498
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
	全体			滋賀県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		3	63.4	64.9
	書くこと		5	52.3	53.4
	読むこと		3	46.2	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		3	40.3	41.7
	話す・聞く能力		3	63.4	64.9
	書く能力		5	52.3	53.4
	読む能力		3	46.2	49.2
問題形式	言語についての知識・理解・技能		0		
	選択式		5	62.7	64.6
	短答式		1	66.3	69.2
	記述式		3	40.3	41.7

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率（%）		全国平均との差	全国平均を0としたときの県平均と全国平均との差
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	滋賀県（公立）	全国（公立）		
1一	スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する	動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す	5・6イ				75.5	77.2	-1.7	-1.7
1二	グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	5・6イ				66.3	69.2	-2.9	-2.9
1三	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	5・6イ	5・6ウ			48.6	48.4	0.2	0.2
2一	【緑のカーテン作りへの協力をお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える		5・6イ			70.1	70.8	-0.7	-0.7
2二	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する	目的や意図に応じ、引用して書く		5・6エ			70.2	70.9	-0.7	-0.7
2三	「水やりに協力してくれる人をほめます」の【イ】に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く		5・6ウ			31.6	33.0	-1.4	-1.4
3一	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、【A】に当てはまる言葉として適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える			5・6エ		72.7	75.9	-3.2	-3.2
3二	「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える			5・6オ		25.0	28.0	-3.0	-3.0
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	5・6ウ	5・6エ			40.9	43.7	-2.8	-2.8

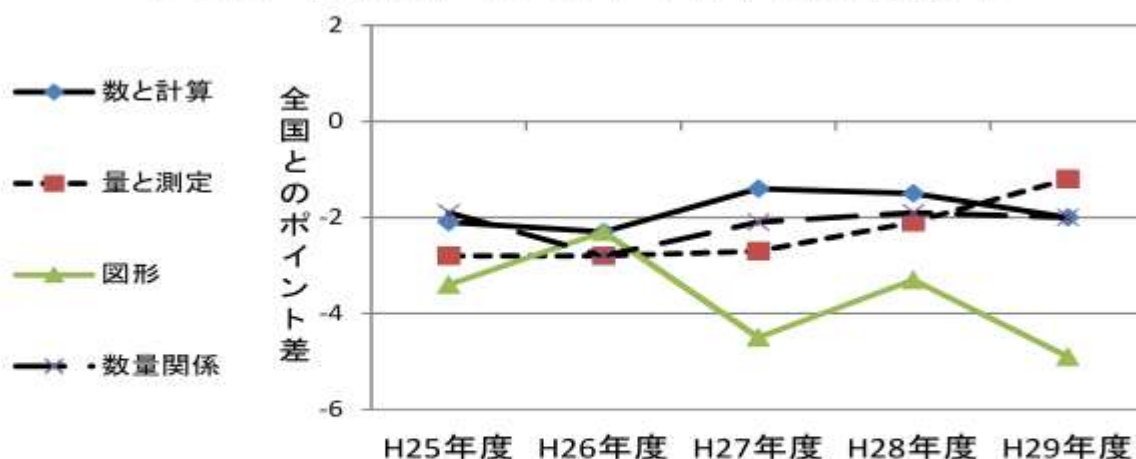
小学校算数における分析

領域別平均正答率の全国との比較【小学校】〔算数〕

算数Aでは、昨年度と比較し、「量と測定」の領域でやや改善が見られたが、「図形」の領域においては5ポイント近く全国平均を下回っている。図形を構成する活動をとおして、図形の性質を見いだしたり、構成要素と特徴を関連付けて捉えたりする活動を充実させることが大切である。

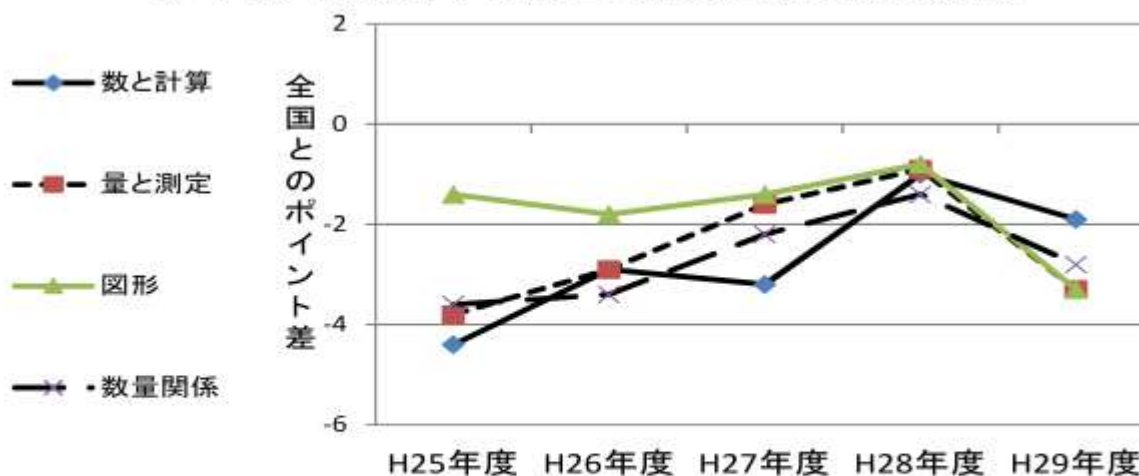
算数Bでは、どの領域も全国の平均正答率との差が広がった。特に記述式の問題に課題があり、問題を解決する方法や、判断の理由を説明する活動を充実させることが大切である。

小学校 領域別平均正答率の経年変化(算数A)



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
数と計算	-2.1	-2.3	-1.4	-1.5	-2.0
量と測定	-2.8	-2.8	-2.7	-2.1	-1.2
図形	-3.4	-2.3	-4.5	-3.3	-4.9
数量関係	-1.9	-2.8	-2.1	-1.9	-2.0

小学校 領域別平均正答率の経年変化(算数B)



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
数と計算	-4.4	-2.9	-3.2	-1.0	-1.9
量と測定	-3.8	-2.9	-1.6	-0.9	-3.3
図形	-1.4	-1.8	-1.4	-0.8	-3.3
数量関係	-3.6	-3.4	-2.2	-1.4	-2.8


小学校算数における改善の視点

解決の方法や判断の理由を数学的に表現したり、定着のために繰り返し問題に取り組んだりする

○ ポイント

- ①基本的な問題で用いた考えを適用することで、新たな問題を解決する活動を設定する。
- ②解決の方法や判断の理由を、図・言葉・式で表し、説明する活動を充実する。

○ 取組の例

ポイント①  普段の取組についてチェックしてみましょう。

本時の学習のねらいに応じた適用問題に取り組ませる。

- ・適用問題に取り組ませ、本時のめあてが達成できたかどうか児童も教師も評価する。

(例) 計算の方法を説明する学習の際は、適用問題で計算して終わるのではなく、方法を友達に説明するような時間や問題を設定する。

最初より「より良く解くことができた」「自分の力で解けた」という経験を積み重ね、自信をもたせたり、友達の考えの良さを実感させたりする。

- ・多様な考えや方法が出てきた場合は、適用問題をいろいろな方法で数問解くことで「は・か・せ・どん」(速く・簡単に・正確に・どんな時でも使える)の方法はどれかということに気付かせる。

ポイント②

具体物の操作活動を大切に、図形や量の感覚を豊かにさせる。

- ・操作して終わりではなく、操作した内容を絵や図で表し、式と関連付けたり、図形の構成要素に着目させることで、図形の特徴や性質と関連付けて捉えさせたりする。

立てた式や求めた答えが正しいかどうか、自身で確認する習慣を付けさせる。

- ・計算の結果を見積り、計算の仕方を図や数直線を使って考え、結果を確かめさせる。

自力解決の際に、自分の考えの根拠や、判断した理由を図や言葉・式で表現させる。

- ・問題場面を図や言葉・式で表すことで、問題場面をイメージするとともに、自分の考えの根拠とさせる。

ペア学習などで、自分の考えを説明する機会を設定する。

- ・自分の考えを説明することで、考えを整理したり、判断した根拠を明らかにしたりさせる。

全体交流で、多様な考えに触れさせ、考えを広げたり、共通点を見いだしたりさせる。

- ・友達のかけた図や式をもとに、友達の考え方を説明させる場面を設定したり、表や式で示された数の意味を捉え、数の意味を説明させたりする。

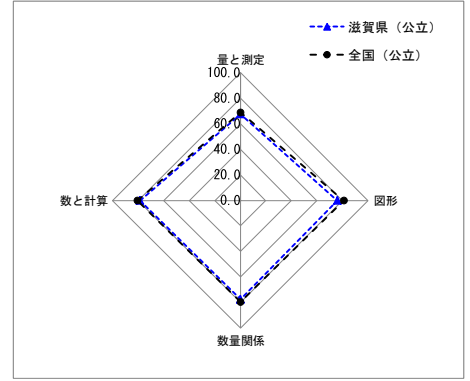
問題別調査結果 [算数A：主として知識]
 滋賀県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	223	19,455		12,756	999,723
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
	全体			滋賀県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域	数と計算		8	78.6	80.6
	量と測定		2	67.6	68.8
	図形		2	76.2	81.1
	数量関係		5	77.6	79.6
	算数への関心・意欲・態度		0		
評価の観点	数学的な考え方		0		
	数量や図形についての技能		8	74.8	77.7
	数量や図形についての知識・理解		7	77.4	79.7
	選択式		7	78.1	79.6
問題形式	短答式		8	74.3	77.8
	記述式		0		

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率（%）		全国平均との差	全国平均を0としたときの県平均と全国平均との差
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	滋賀県（公立）	全国（公立）		
1 (1)	リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く	具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	3A (3)イ			5D (1)ア	97.0	96.9	0.1	0.1
1 (2)	買ったリボンの長さで、1m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる	5A (3)ア				67.2	69.9	-2.7	-2.7
1 (3)	60×0.4を、60×4を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ	小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えときの、乗法の性質を理解している	5A (3)イ				90.4	91.0	-0.6	-0.6
2 (1)	123×52を計算する	整数の乗法の計算をすることができる	3A (3)イ				84.5	85.2	-0.7	-0.7
2 (2)	10.3+4を計算する	小数と整数の加法の計算をすることができる	4A (5)イ				74.1	79.7	-5.6	-5.6
2 (3)	6+0.5×2を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	4A (5)ウ			4D (2)ア	66.5	66.6	-0.1	-0.1
2 (4)	5÷9の商を分数で表す	商を分数で表すことができる	5A (4)イ				64.3	69.2	-4.9	-4.9
3	8と12の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5A (1)イ				84.6	86.2	-1.6	-1.6
4	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ	任意単位による測定について理解している		1B (1)アイ 3B (1)イ			69.8	70.7	-0.9	-0.9
5	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ	高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している		5B (1)ア			65.3	67.0	-1.7	-1.7
6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している				5C (1)アウ	67.1	75.5	-8.4	-8.4
7	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ	立方体の面と面の位置関係を理解している				4C (2)アイ	85.3	86.7	-1.4	-1.4
8	はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことができる				3D (2)イ	82.7	83.6	-0.9	-0.9
9 (1)	出席番号1番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ	資料を二次元表に分類整理することができる				4D (4)ア	85.9	88.0	-2.1	-2.1
9 (2)	二次元表の合計欄に入る数を書く	資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる				4D (4)ア	55.9	62.8	-6.9	-6.9

問題別調査結果 [算数B：主として活用]
滋賀県一児童（公立）

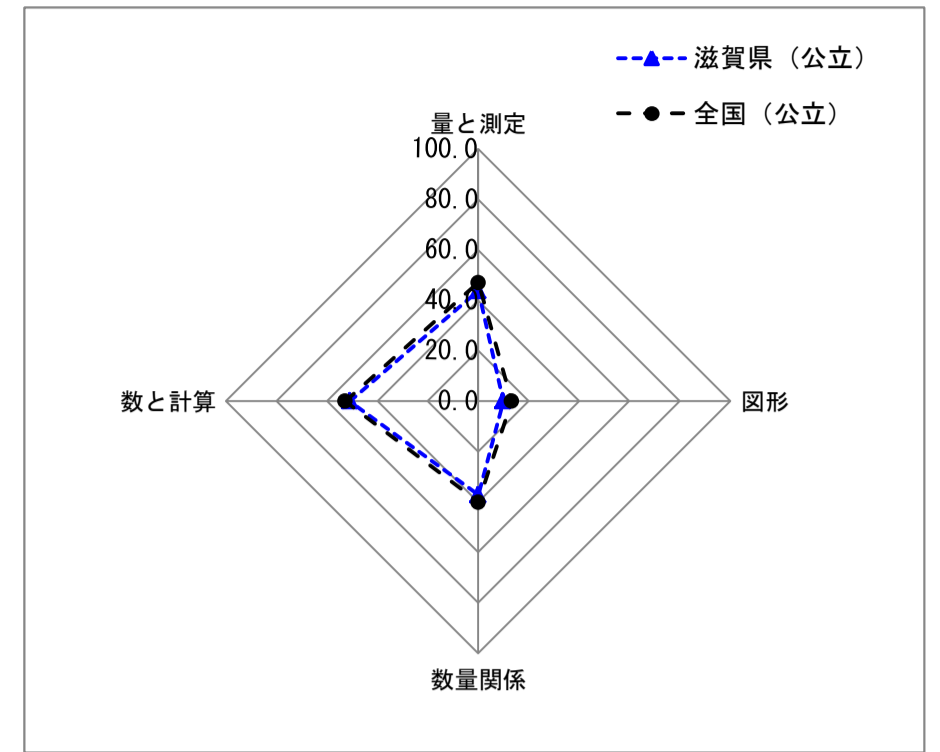
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数		滋賀県（公立）	全国（公立）
		223	19,449			12,754	999,451
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）				
			滋賀県（公立）	全国（公立）			
全体		11	43	45.9			
学習指導要領の領域	数と計算	5	50.9	52.8			
	量と測定	2	43.7	47.0			
	図形	1	9.9	13.2			
	数量関係	8	37.2	40.0			
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0					
	数学的な考え方	9	42.8	45.4			
	数量や図形についての技能	0					
	数量や図形についての知識・理解	2	46.5	48.6			
問題形式	選択式	3	52.2	54.1			
	短答式	3	60.1	61.7			
	記述式	5	28.2	31.6			

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率（%）		全国平均との差	全国平均を0としたときの県平均と全国平均との差
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	滋賀県（公立）	全国（公立）		
1（1）	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	示された条件を基に、適切な式を立てることができる	2A (2)ア				74.9	76.0	-1.1	-1.1
1（2）	示された考えを基に、54-45の場合で残る部分を図に表す	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる	2A (2)ア 5A (1)イ				80.0	81.8	-1.8	-1.8
1（3）	2けたのひき算の答えを求めるとききまりを書く	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	5A (1)イ		4D (2)		37.0	38.6	-1.6	-1.6
2（1）	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く	料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	2A (2)ア		3D (3)		36.9	40.4	-3.5	-3.5
2（2）	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	3A (4)ア 5A (1)イ				25.5	27.4	-1.9	-1.9
3（1）	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる	5B (3)ア		4D (2)ア		66.1	67.9	-1.8	-1.8
3（2）	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	5B (3)ア		4D (2)ア		21.2	26.1	-4.9	-4.9
4（1）	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる			4D (4)ア		35.8	39.8	-4.0	-4
4（2）	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる			3D (3)ア 5D (4)		26.8	29.3	-2.5	-2.5
5（1）	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる			5D (3)		63.8	65.0	-1.2	-1.2
5（2）	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる	3C (1)ウ		5D (3)		9.9	13.2	-3.3	-3.3

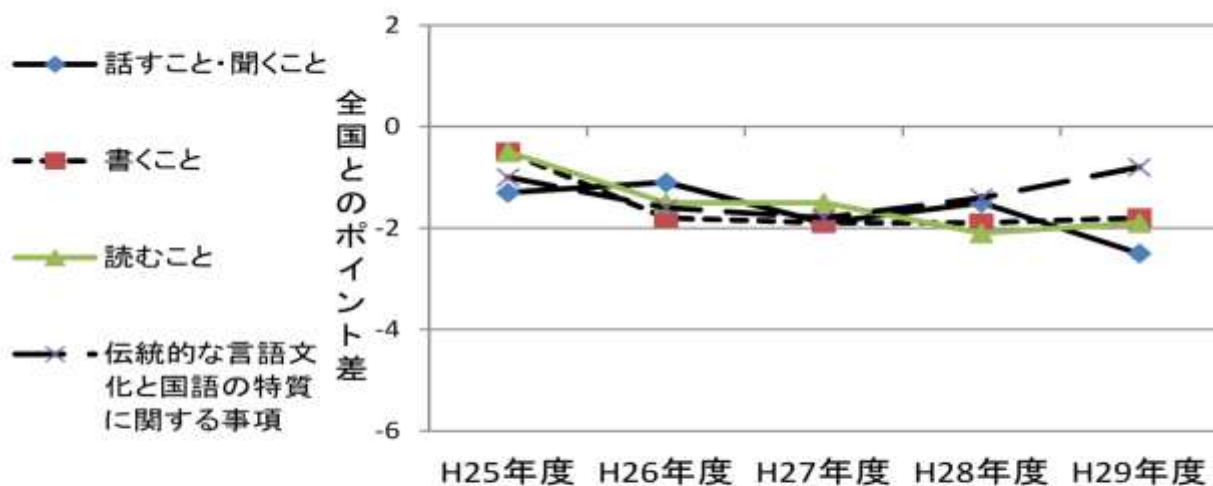
中学校国語における分析

領域別平均正答率の全国との比較【中学校】〔国語〕

国語Aは、昨年度と比較し、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」など三つの領域で改善が見られたが、「話すこと・聞くこと」の領域で全国との差が広がった。国語Bは、どの領域においても全国との差が大きい。

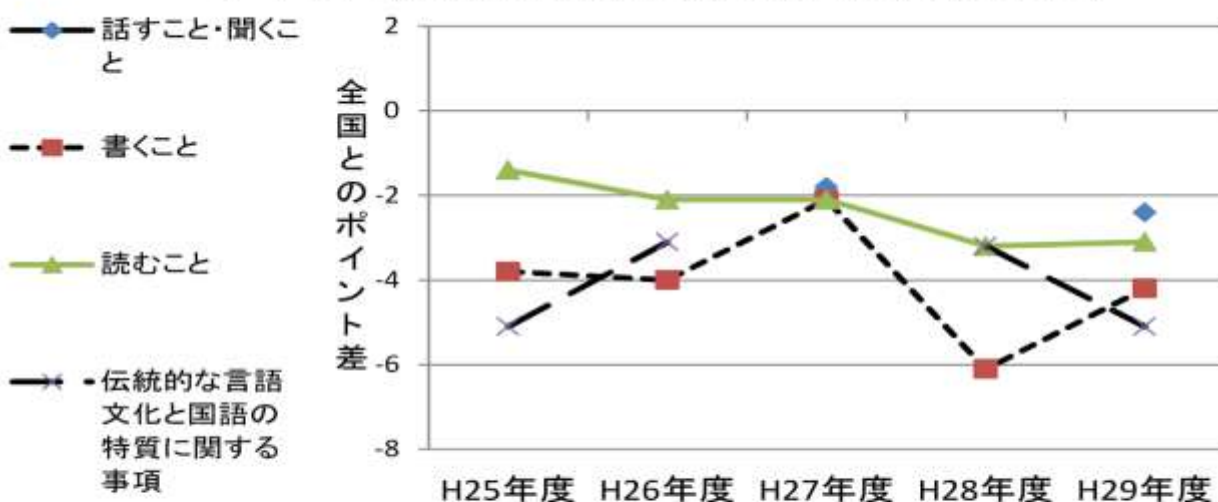
基礎的・基本的な知識や技能を関連付けて判断したり、さまざまな情報をもとにして自分の考えをもち、考えたことをわかりやすく書いたり話したりする学習を充実させることが必要である。

中学校 領域別平均正答率の経年変化(国語A)



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
話すこと・聞くこと	-1.3	-1.1	-1.9	-1.5	-2.5
書くこと	-0.5	-1.8	-1.9	-1.9	-1.8
読むこと	-0.5	-1.5	-1.5	-2.1	-1.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	-1	-1.6	-1.8	-1.4	-0.8

中学校 領域別平均正答率の経年変化(国語B)



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
話すこと・聞くこと			-1.8		-2.4
書くこと	-3.8	-4	-2.1	-6.1	-4.2
読むこと	-1.4	-2.1	-2.1	-3.2	-3.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	-5.1	-3.1		-3.2	-5.1

中学校国語における改善の視点

知識や技能を活用し、根拠を明確にして、自分の考えを書いたり話したりする

○ ポイント

- ①一人ひとりの生徒が、身に付けた知識・技能を活用し、根拠を明確にして自分の考えを書いたり話したりする場面を設定する。
- ②根拠の確かさや表現の仕方の適切さについて吟味する活動を繰り返し設定する。

○ 取組の例

【全ての領域等の学習】



普段の取組についてチェックしてみましょう。

- 知識や技能が身に付いているか確かめるため、単元の終わりに学習した用語を用いてまとめや振り返りを書かせる。
 - ・「比喩」「反復」「表現技法」、「類義語」「対義語」、「構成」「展開」「描写」「根拠」「表現」「効果」、「随筆」「紀行文」、「行書」「楷書」「筆順」「筆脈」等
- 単元末テストや定期テストの中に、知識や技能が定着しているか、活用できるようになっているか確かめる問題を設定する。
 - ・用語を答えさせる問題だけでなく、用語を使って説明させる問題や、教科書教材とは別の文章を素材にして答えさせたり、学習した内容との関連を指摘させたりする問題
- 定期テスト後に振り返りの場面を設定する。
 - ・間違った問題について、ノートに問題文を写し、正答と誤答を並べて書かせる。なぜ間違ったのか理由を考えさせて書かせる。
 - ・家庭学習や授業への取り組み方を具体的にあげて振り返らせ、次回への具体的な取り組みについて決めさせる。

【読むことの領域の学習】

ポイント①

- 文章を読んで、構成や展開の仕方、表現の特徴やその効果について考え、既習の表現技法や用語と関連付けて説明させる。
 - ・説明の際には、自分の考えを支える根拠として文章中の具体的な表現を引用させる。

ポイント②

- 交流をとおして、引用した表現が考えの根拠として適切かどうか検討させる。
 - ・交流の際には、「引用した表現が同じでも異なった考えであるもの」や「同じ考えであっても引用した表現が異なるもの」に着目させる。

【書くことの領域の学習】

ポイント①②

- 文章の構成を考える段階や記述したあとに、書き手の伝えたいことが効果的に読み手に伝わっているかどうか、「目的や意図」「効果」「構成」等の用語と関連付けてペアやグループで検討させる。
- 書き手には「何を伝えるために、どのような情報を取り上げ、どのような構成で発信するのか」ということを説明させ、読み手には「集めた情報のうち取り上げるものが伝えたい内容とあっているか」「その情報を取り上げることでどのような効果があるのか」という観点で助言させる。
- 「情報が不十分ではないか」「情報の再収集が必要ではないか」という点や「情報をどのように集めればよいか」というよりよい情報収集の方法についても検討させる。

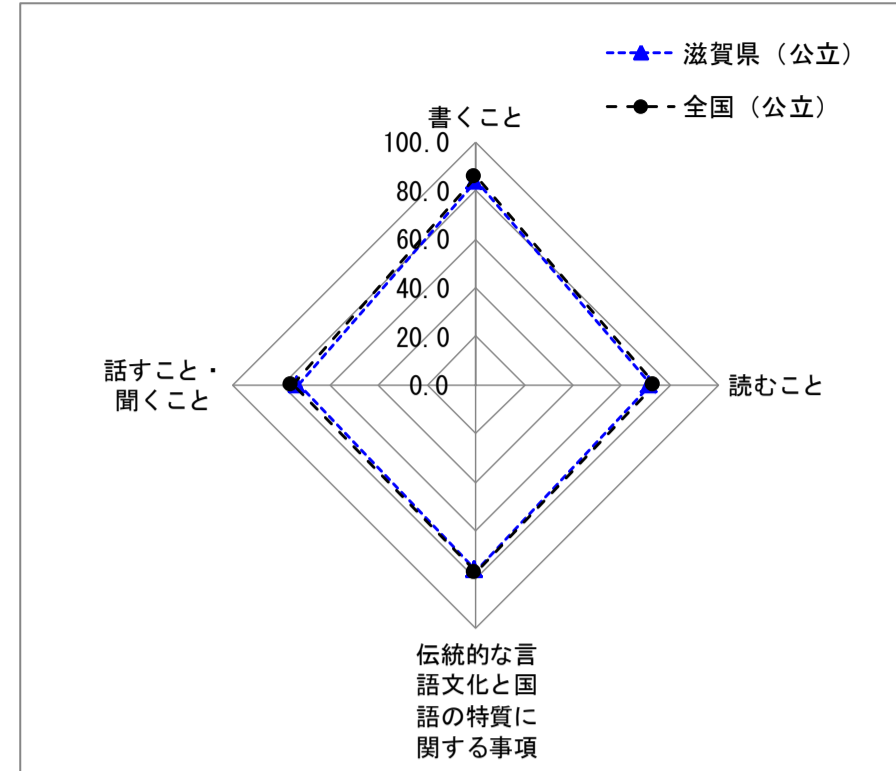
問題別調査結果 [国語A：主として知識]
滋賀県一生徒（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,539		12,717	982,511
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			32	76	77.4
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		4	72.9	75.4
	書くこと		4	83.9	85.7
	読むこと		6	71.9	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		18	76.4	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		0		
	話す・聞く能力		4	72.9	75.4
	書く能力		4	83.9	85.7
	読む能力		6	71.9	73.8
	言語についての知識・理解・技能		18	76.4	77.2
問題形式	選択式		22	76.5	78.5
	短答式		10	75.2	75.1
	記述式		0		

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率（%）			全国平均との差
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	滋賀県（公立）	全国（公立）	全国平均との差	
1	画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する				2 (1)イ (7)	79.0	81.4	-2.4	-2.4
2一	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	2ウ				85.6	87.8	-2.2	-2.2
2二	スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する	事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す	1イ				77.7	79.6	-1.9	-1.9
3一	それまでがらばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す	書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く		2エ			84.4	86.0	-1.6	-1.6
3二	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する	書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す		2オ			82.4	84.3	-1.9	-1.9
4一	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する	文章の要旨を捉える			1イ		79.0	81.0	-2.0	-2.0
4二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ			1エ		71.6	72.9	-1.3	-1.3
5一	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成を工夫して分かりやすく書く		2イ			77.9	79.8	-1.9	-1.9
5二	〈推薦者から〉の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する	目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる		1ア			90.8	92.7	-1.9	-1.9
6一	登場する人物を整理したものに当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ		72.6	74.8	-2.2	-2.2
6二	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する				1ウ		59.1	60.1	-1.0	-1.0
7一	先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す	相手に分かりやすいように語句を選択して話す	1ウ				51.5	54.0	-2.5	-2.5
7二	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する	話すための材料を人との交流を通して集める	1ア				77.0	80.4	-3.4	-3.4
8一	詩について説明したものとして適切なものを選択する	文章の表現の仕方について自分の考えをもつ			2ウ		79.0	81.9	-2.9	-2.9
8二	二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする			1オ		70.1	72.3	-2.2	-2.2

全国平均を0としたときの
県平均と全国平均との差

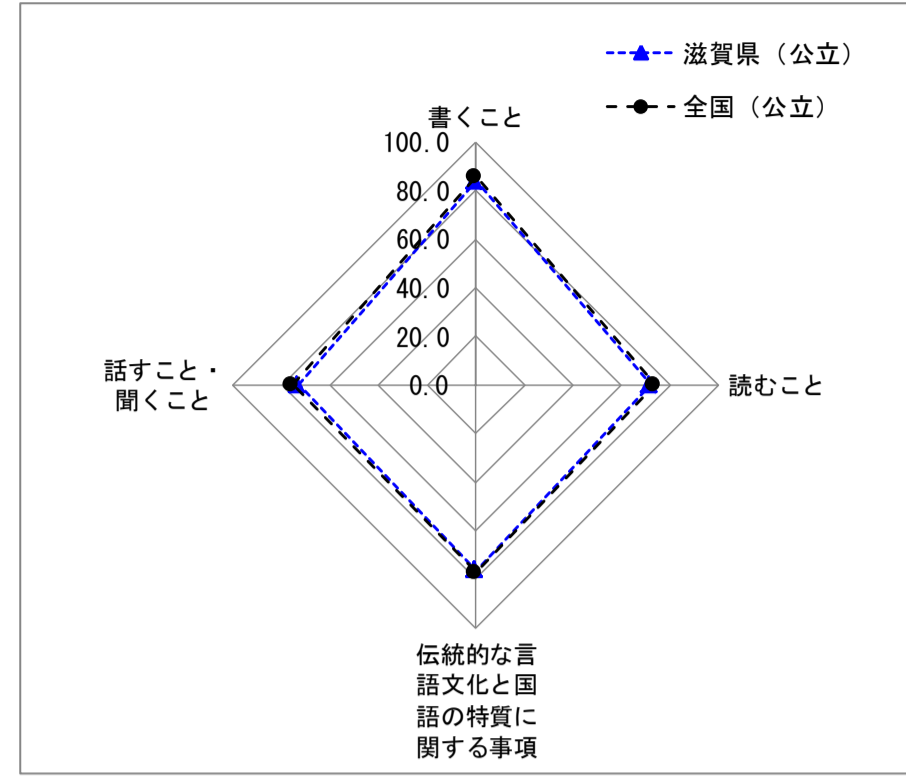
問題別調査結果 [国語A：主として知識]
滋賀県一生徒（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,539		12,717	982,511
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			32	76	77.4
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		4	72.9	75.4
	書くこと		4	83.9	85.7
	読むこと		6	71.9	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		18	76.4	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		0		
	話す・聞く能力		4	72.9	75.4
	書く能力		4	83.9	85.7
	読む能力		6	71.9	73.8
	言語についての知識・理解・技能		18	76.4	77.2
問題形式	選択式		22	76.5	78.5
	短答式		10	75.2	75.1
	記述式		0		

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率（%）		全国平均との差	滋賀県平均との差
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	滋賀県（公立）	全国（公立）		
9-1	漢字を書く（組織のキボを大きくする）	文脈に即して漢字を正しく書く				2 (1)ウ (4)	68.5	62.8	5.7	5.7
9-2	漢字を書く（雨で運動会がエンキになる）		2 (1)ウ (4)	64.5	62.3	2.2	2.2			
9-3	漢字を書く（店をイトナむ）		2 (1)ウ (4)	86.9	85.4	1.5	1.5			
9-2-1	漢字を読む（堂楯を決める）	文脈に即して漢字を正しく読む				2 (1)ウ (7)	98.3	98.7	-0.4	-0.4
9-2-2	漢字を読む（鮭やかな色合い）		2 (1)ウ (7)	94.7	94.5	0.2	0.2			
9-2-3	漢字を読む（水が垂れる）		2 (1)ウ (7)	93.6	94.3	-0.7	-0.7			
9-3ア	適切な語句を選択する（えりを正して話を聞く）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				1 (1)イ (6)	75.7	76.9	-1.2	-1.2
9-3イ	適切な語句を選択する（よい結果を早く出したときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）		1 (1)イ (6)	59.0	61.4	-2.4	-2.4			
9-3ウ	適切な敬語を選択する（先生もこの書店をよくご利用になるのですね）		2 (1)イ (7)	87.6	85.7	1.9	1.9			
9-3エ	適切な語句を選択する（私は映画が大好きです。ただし、映画なら何でも見るわけではありません）		1 (1)イ (5)	94.9	95.5	-0.6	-0.6			
9-3オ	適切な語句を選択する（チームの勝利を確信する）	2 (1)イ (4)	93.1	94.2	-1.1	-1.1				
9-4	言い直した意図として適切なものを選択する	助詞の働きについて理解する				2 (1)イ (5)	90.4	91.6	-1.2	-1.2
9-5	話合いの記録として適切な言葉を考える	事象や行為などを表す多様な語句について理解する				1 (1)イ (9)	33.6	35.8	-2.2	-2.2
9-6-1	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する	楷書と行書との違いを理解する				1 (2)イ	43.8	49.6	-5.8	-5.8
9-6-2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する				1 (2)イ	62.5	63.7	-1.2	-1.2
9-7-1	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す（あやしう）	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える				2 (1)ア (4)	76.1	77.2	-1.1	-1.1
9-7-2	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する	古典には様々な種類の作品があることを知る				1 (1)ア (4)	73.0	78.5	-5.5	-5.5

全国平均を0としたときの
県平均と全国平均との差

問題別調査結果 [国語B：主として活用]

滋賀県一生徒（公立）

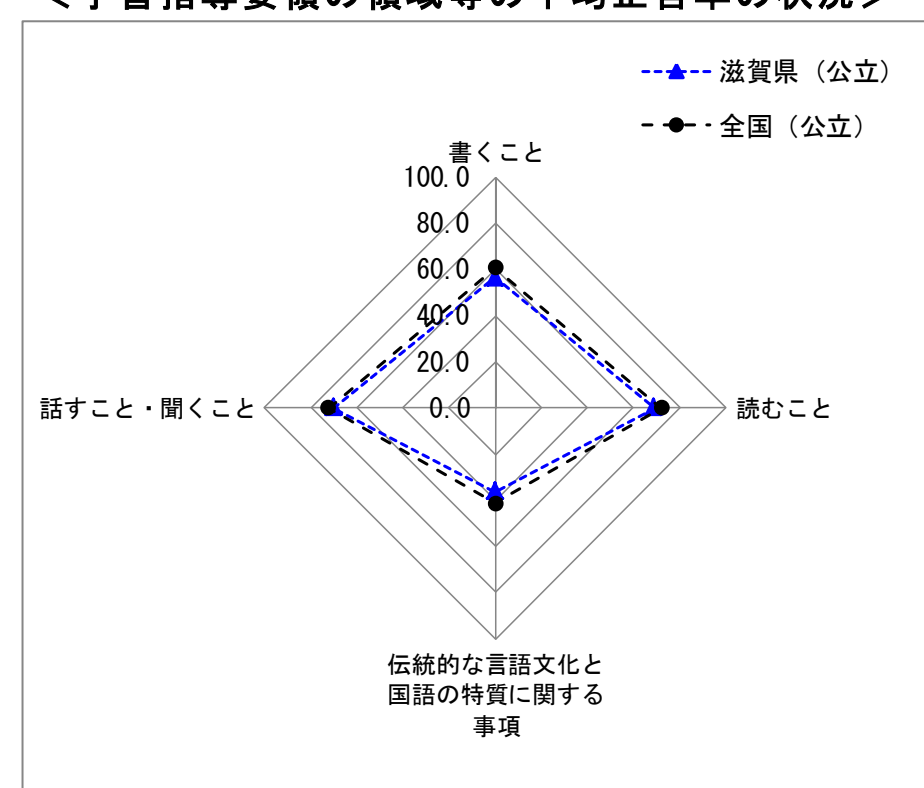
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,539		12,719	982,619
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域等	全体		9	69	72.2
	話すこと・聞くこと		3	70.0	72.4
	書くこと		4	56.6	60.8
	読むこと		4	69.0	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		1	36.3	41.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		3	51.3	55.9
	話す・聞く能力		3	70.0	72.4
	書く能力		4	56.6	60.8
	読む能力		4	69.0	72.1
	言語についての知識・理解・技能		1	36.3	41.4
問題形式	選択式		5	77.0	79.6
	短答式		1	82.8	84.1
	記述式		3	51.3	55.9

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

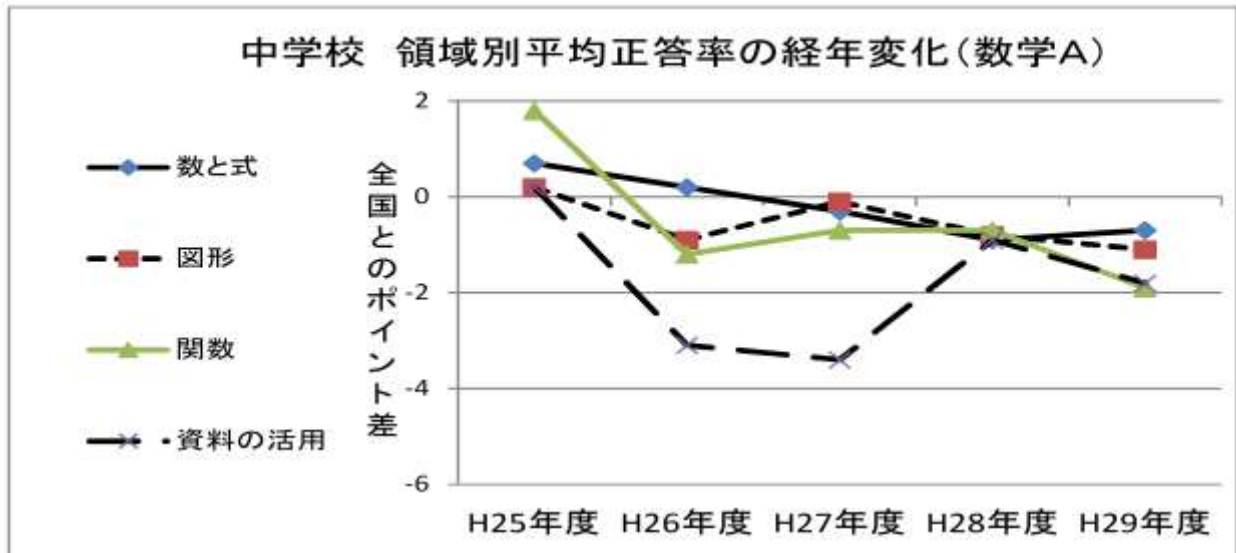
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率（%）		全国平均との差	全国平均を0としたときの県平均と全国平均との差
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	滋賀県（公立）	全国（公立）		
1一	本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ		81.6	84.1	-2.5	-2.5
1二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ		82.8	84.1	-1.3	-1.3
1三	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く		1ウ	1エ	1(1)イ(4)	36.3	41.4	-5.1	-5.1
2一	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	2ウ				83.0	85.4	-2.4	-2.4
2二	聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	2エ				72.7	74.2	-1.5	-1.5
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す	相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	1イ	2ウ			54.4	57.6	-3.2	-3.2
3一	下書きについての説明として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する		1イ			72.4	75.3	-2.9	-2.9
3二	太宰治と他の作家との関係を書き直したものととして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る			1カ		75.5	78.7	-3.2	-3.2
3三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く	必要な情報を集めるための見通しをもつ		1ア			63.2	68.8	-5.6	-5.6

中学校数学における分析

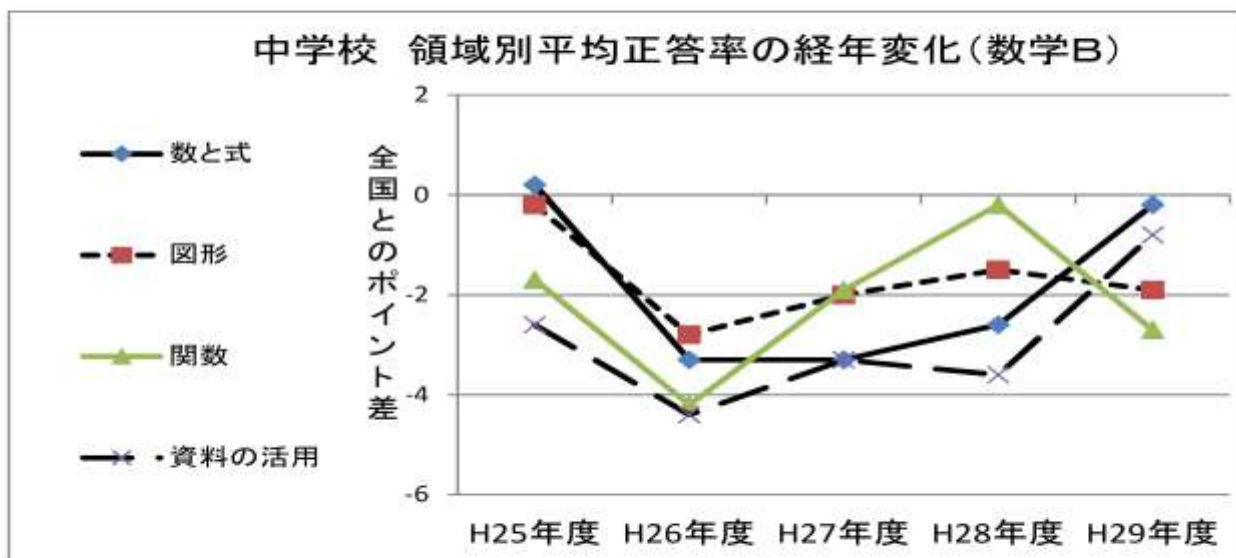
領域別平均正答率の全国との比較【中学校】〔数学〕

昨年度と比較すると数学Aでは「数と式」の領域で、数学Bでは、「数と式」、「資料の活用」の領域でそれぞれ改善が見られた。

今後さらに改善するためには、基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動をとおして定着を図ることが大切である。また、問題を解決するため、根拠となる事柄を明らかにして説明する活動を充実させることが必要である。



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
数と式	0.7	0.2	-0.3	-0.9	-0.7
図形	0.2	-0.9	-0.1	-0.8	-1.1
関数	1.8	-1.2	-0.7	-0.7	-1.9
資料の活用	0.2	-3.1	-3.4	-0.9	-1.8



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
数と式	0.2	-3.3	-3.3	-2.6	-0.2
図形	-0.2	-2.8	-2	-1.5	-1.9
関数	-1.7	-4.2	-1.9	-0.2	-2.7
資料の活用	-2.6	-4.4	-3.3	-3.6	-0.8

中学校数学における改善の視点

解決の方法や理由となる根拠を明らかにし、根拠をもとに数学的に表現する

○ ポイント

- ①着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え、説明する活動を充実させる。
- ②与えられた情報から必要な情報を選択したり、資料の傾向を的確に読み取ったりして、根拠をもとに判断する活動を充実させる。

○ 取組の例

ポイント①  普段の取組についてチェックしてみましょう。

【「図形」領域の学習】

図形の性質を正しく理解させる。

図形の性質を活用することで、課題を解決するような場面を意図的に設定する。

- ・図形の性質を覚えるだけでなく、図形の角の大きさや辺の長さなどを求めるために、図形の性質を活用させる活動や、図形の性質を活用することで、新たな性質を見出すような活動を充実させる。

【証明が必要な問題】

結論を導くために、仮定となる条件を明らかにさせる。

仮定となる条件を整理することで、証明の方針をもたせる。

できあがった証明の流れを、結論から仮定、仮定から結論の双方向から吟味させる。

証明した事柄を用いて、新たな性質を見出す活動をとおして、数学的な推論の必要性や意味を学ぶ場面を設定する。

- ・着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考える活動を取り入れ、証明できるように指導する。

ポイント②

【「資料の活用」領域の学習】

日常生活に関連した問題から、解決のために必要なデータを検討し選択させる。

代表値などを活用し、比較・分析し、的確に読み取らせる。

結果をもとに、多角的、批判的に検討し、「選択したデータは課題解決のための根拠として適切か」等の視点で、課題解決の道筋を振り返らせる。

既習の用語や数学的な表現を用いながら話し合い、説明させる。

話し合いの結果や傾向を踏まえて、意思決定をさせることで課題を解決させる。

- ・資料を収集・整理し、傾向を捉えて説明する活動の後、問題解決への過程を振り返り、処理の仕方を見直す場面を設定し、日常生活や社会における問題解決のための構想を立てることができるように指導する。

問題別調査結果 [数学A：主として知識]
滋賀県一生徒（公立）

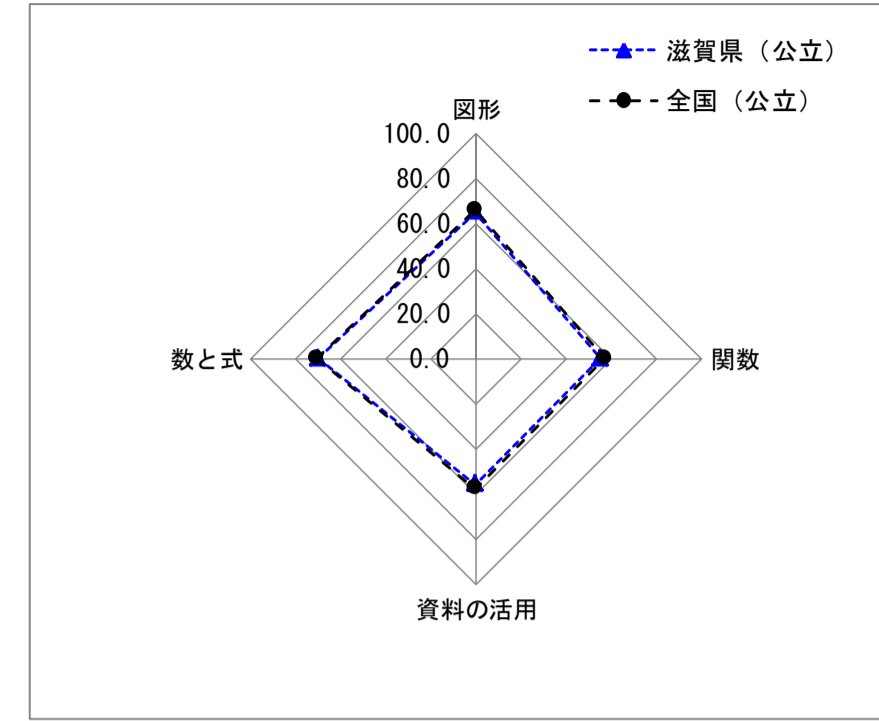
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,538		12,734	982,811
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			36	63	64.6
学習指導要領の領域	数と式		12	69.7	70.4
	図形		12	64.9	66.0
	関数		8	55.5	57.4
	資料の活用		4	55.8	57.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		0		
	数学的な技能		20	67.0	68.2
	数量や図形などについての知識・理解		16	58.8	60.2
問題形式	選択式		13	65.1	66.8
	短答式		23	62.4	63.4
	記述式		0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率（%）			全国平均との差
			数と式	図形	関数	資料の活用	滋賀県（公立）	全国（公立）	全国平均との差	
1(1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	小6(1)イ				85.4	87.1	-1.7	-1.7
1(2)	a と b が負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	2つの負の数の和は負の数になることを理解している	1(1)イ				69.3	69.3	0.0	0.0
1(3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1(1)ウ				75.2	75.6	-0.4	-0.4
1(4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す	実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1(1)ア、エ				88.3	89.4	-1.1	-1.1
2(1)	5mの重さが a g の針金の1mの重さを、 a を用いた式で表す	数量の関係を文字式で表すことができる	1(2)エ				55.1	56.3	-1.2	-1.2
2(2)	$100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	1(2)エ				73.0	75.4	-2.4	-2.4
2(3)	$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1)ア				76.8	78.5	-1.7	-1.7
2(4)	等式 $x + 4y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができる	2(1)ウ				52.0	56.1	-4.1	-4.1
3(1)	一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	1(3)ウ				83.1	82.7	0.4	0.4
3(2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1(3)ウ				56.8	52.8	4.0	4.0
3(3)	$x + y = 2$ の解の意味について選ぶ	二元一次方程式の解の意味を理解している	2(2)ア				59.3	59.6	-0.3	-0.3
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ				61.9	62.2	-0.3	-0.3
4(1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	1(1)ア				65.6	67.4	-1.8	-1.8
4(2)	$\triangle ABC$ を、点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかくことができる	1(1)イ				91.0	90.6	0.4	0.4
4(3)	半径が5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める	扇形の弧の長さを求めることができる	1(2)ウ				29.5	30.7	-1.2	-1.2
5(1)	直方体において、与えられた辺に平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	1(2)ア				65.3	67.0	-1.7	-1.7
5(2)	1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ	円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している	1(2)イ				89.2	90.1	-0.9	-0.9
5(3)	立方体の見取図を読み取り、2つの線分の長さの関係について、正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる	1(2)イ				77.5	80.2	-2.7	-2.7

問題別調査結果 [数学A：主として知識]

滋賀県一生徒（公立）

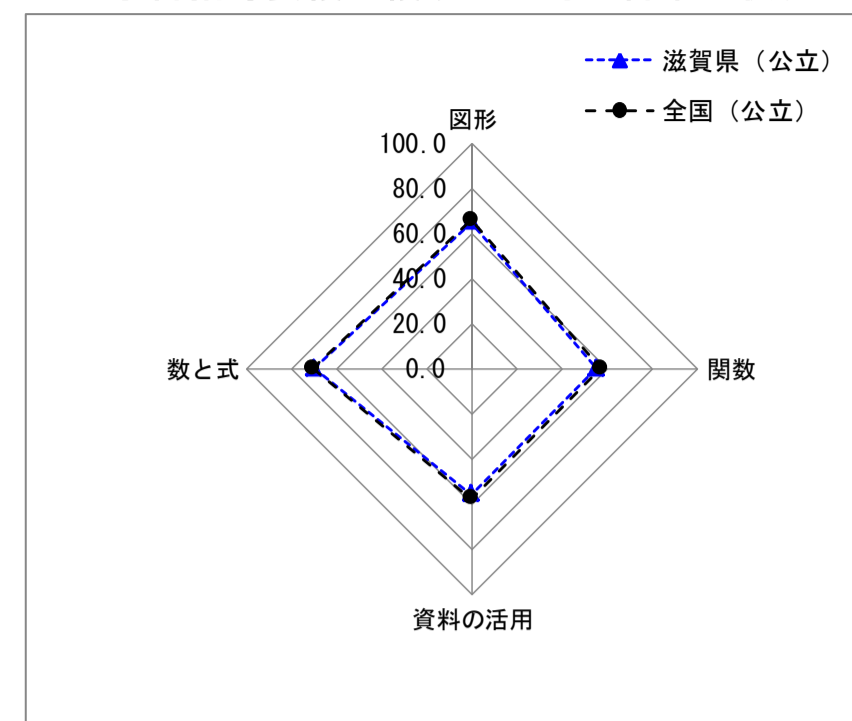
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,538		12,734	982,811
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			36	63	64.6
学習指導要領の領域	数と式		12	69.7	70.4
	図形		12	64.9	66.0
	関数		8	55.5	57.4
	資料の活用		4	55.8	57.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		0		
	数学的な技能		20	67.0	68.2
	数量や図形などについての知識・理解		16	58.8	60.2
問題形式	選択式		13	65.1	66.8
	短答式		23	62.4	63.4
	記述式		0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率（%）		全国平均との差	全国平均を0としたときの県平均と全国平均との差
			数と式	図形	関数	資料の活用	滋賀県（公立）	全国（公立）		
5（4）	円柱の体積を求める	円柱の体積を求めることができる		1（2） ウ			53.4	51.8	1.6	1.6
6（1）	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している		2（1） ア			41.7	43.1	-1.4	-1.4
6（2）	n角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を数える	多角形の内角の和の求め方を理解している		2（1） イ			64.6	69.4	-4.8	-4.8
7（1）	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2（2） ア			79.0	78.6	0.4	0.4
7（2）	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している		2（2） ウ			48.8	49.1	-0.3	-0.3
8	事柄「∠ABD=∠CBD、∠ADB=∠CDBならば、AB=CBである。」の仮定をすべて書く	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる		2（2） イ			72.8	74.3	-1.5	-1.5
9	長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している		1（1） ア			17.9	20.6	-2.7	-2.7
10（1）	比例 $y=4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めることができる		1（1） エ			84.0	84.6	-0.6	-0.6
10（2）	比例のグラフから式を求める	与えられた比例のグラフから、 x と y の関係を $y=ax$ の式で表すことができる		1（1） エ			56.4	57.1	-0.7	-0.7
10（3）	反比例の表から比例定数を求める	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している		1（1） イ			34.4	34.4	0.0	0.0
11（1）	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる		2（1） イ			71.3	75.9	-4.6	-4.6
11（2）	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している		2（1） イ			55.1	56.0	-0.9	-0.9
12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ	具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる		2（1） ア			65.1	67.6	-2.5	-2.5
13	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ	二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している		2（1） ウ			59.8	63.0	-3.2	-3.2
14（1）	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している		1（1） ア			25.2	28.6	-3.4	-3.4
14（2）	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる		1（1） イ			42.6	45.5	-2.9	-2.9
15（1）	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	「同様に確からしい」ことの意味を理解している		2（1） ア			77.6	78.0	-0.4	-0.4
15（2）	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる		2（1） ア			77.6	78.3	-0.7	-0.7

問題別調査結果 [数学B：主として活用]

滋賀県一生徒（公立）

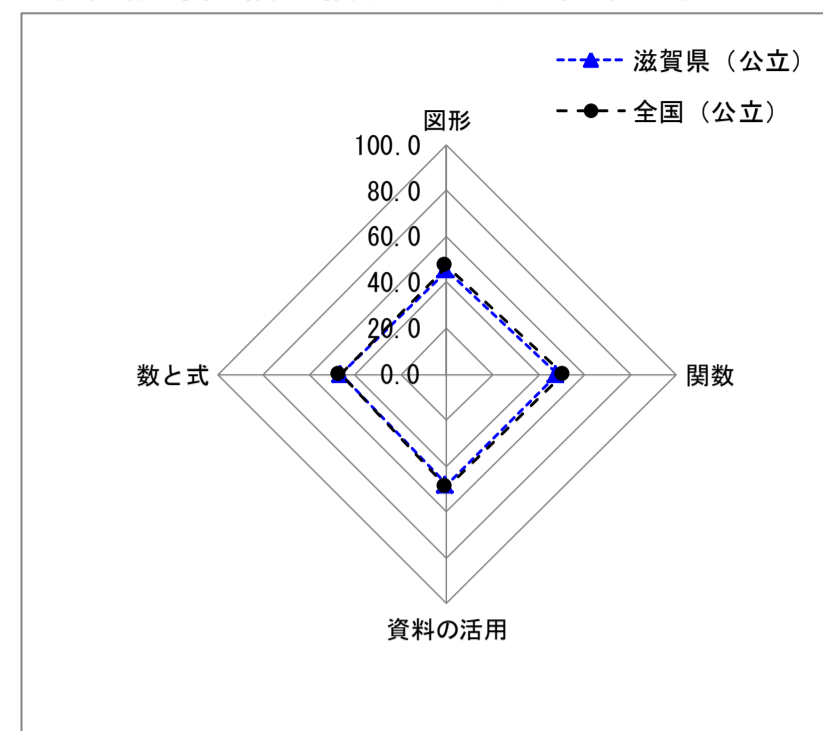
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	102	9,538		12,727	982,786
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			15	47	48.1
学習指導要領の領域	数と式		3	46.1	46.3
	図形		6	45.2	47.1
	関数		3	48.1	50.8
	資料の活用		3	48.3	49.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		10	35.7	36.8
	数学的な技能		3	58.9	61.2
	数量や図形などについての知識・理解		2	82.6	85.1
問題形式	選択式		4	52.7	53.8
	短答式		6	64.2	66.3
	記述式		5	20.6	21.7

※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率（%）		全国平均との差	全国平均を0としたときの県平均と全国平均との差
			数と式	図形	関数	資料の活用	滋賀県（公立）	全国（公立）		
1 (1)	隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚がある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ	事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる		1 (1)イ			66.6	67.5	-0.9	-0.9
1 (2)	四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様になるとき、どのような回転移動になるかを説明する	2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる		1 (1)イ		13.1	14.0	-0.9	-0.9	
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる		1 (1)イ		51.1	52.8	-1.7	-1.7	
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1 (2)ア			80.1	80.4	-0.3	-0.3	
2 (2)	六角形をn個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローをnを用いた式で表す	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	1 (2)ア			43.5	44.1	-0.6	-0.6	
2 (3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、6+5(n-1)という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	1 (2)ア			14.6	14.5	0.1	0.1	
3 (1)	与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万m ³ であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		1 (1)ウ		88.1	90.8	-2.7	-2.7	
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万m ³ になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		2 (1)イ、エ		16.8	18.4	-1.6	-1.6	
3 (3)	与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる		2 (1)イ		39.6	43.2	-3.6	-3.6	
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる	2 (2)イ、ウ			42.1	44.1	-2.0	-2.0	
4 (2)	∠BADと∠CBEが20°のとき、∠BEAの大きさを求める	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる	2 (1)ア			56.9	60.0	-3.1	-3.1	
4 (3)	点Dと点EをBD=CEの関係を保ったまま動かしたとき、∠BFDの大きさについて、正しい記述を選ぶ	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる	2 (1)ア 2 (2)ウ			41.5	44.5	-3.0	-3.0	
5 (1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる		1 (1)ア		77.1	79.3	-2.2	-2.2	
5 (2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ	与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる		1 (1)ア、イ		51.4	50.3	1.1	1.1	
5 (3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		1 (1)イ		16.3	17.6	-1.3	-1.3	